



International Institute of Multi-Cultural Studies

特定非営利活動法人

国際比較文化研究所

■ Newsletter ■

Vol. 26. No.1. 2025 年 11 月号

鷺の宮卓話

ウラギンシジミのように

太田敬雄

先日「太田先生・・・？」と声をかけられました。聞けば、その方は 30 年ほど前の学生でした。

人は名前を呼ばれて話しかけられると反応が全く変わるものです。接客などで働いている方は名札を付けておられることが多いですが、私は用が有る時には「チョット」とか「すみません」とかではなく、お名前を呼ばせてもらう事にしています。名前を呼ばれた時には人の反応はすこぶる早くなるものです。

私も名前を呼ばれたことで、どなたなのか分からないままに、「良い」反応をしたのだろーと思います。短い時間でしたが、話が弾みました。

神が少年サムエルに、名を呼んで呼びかけられた話が知られているように、聖書の中で「名前」は大事にされています。旧約聖書に天地創造が描かれています。神が天地を創り上げられる壮大な話で、神はすべての生き物も作りあげられた神話です。そこで人間（アダム）も作られたのですが、その人に神が最初に託された仕事が名前を付けることでした。（創世記 2:19）

その宗教的意味はともかくとして、ここから「名を付ける」と言う行為と「名前」の持つ重要さが分かります。

今の時代、人は自分の名前を出さないままに世の中の出来事や、他の人々を批判したり嘲ったりすることが増えているように思います。しかし、本気で何かを訴えたい時にはやはり自分

の名前を出さないと説得力は無いと思うのですが、如何でしょうか。

四半世紀前に、私は大変厳しい立場に置かれたことが有ります。冬になると檜の葉の裏に張り付いて越冬するウラギンシジミのように家に籠って時間が過ぎるのを丸一年待ったことが有りました。

当時の私のために名前を出して署名して下さった 4000 人の方々と、署名を呼び掛けて下さった方々に支えられて日々を過ごしました。メディアを使って署名を集めた 4000 人ではなく、有志が顔を出し、名前を出して直接集めて下さった方々のお名前は何にも代えがたく、大きな励ましになりました。

ウラギンシジミの冬越しは決して楽な事では有りません。ココと決めた檜の葉が悪ければ春を待てずに命を落としてしまいます。あの冬、我が家のかしぐね（檜の生垣）で越冬を試みたウラギンシジミは、春を待てずに命絶えてしまいました。

私の場合、4000 枚の檜の葉にも匹敵するお名前が、凍り付いている私を包み込んで生かして下さいていたのだと、感謝の思いに包まれます。

いまま私は、あの時お名前を出して下さい下さった方々に支えられて日々を過ごしています。2000 年には国際比較文化研究所を立ち上げることが出来、四半世紀が過ぎた今も胸を張ってその活動続けること許されているのもあの時にお名前を出して支えて下さった皆様のお蔭です。



(PhotoAC より)

ウラギンシジミ：「シジミ」と呼ぶには大きめで、秋になると何処からともなく玄関先のタイルの上に羽を休めに来ます。冬越しは檜の葉の裏にしがみつくように泊り、微動だにせず過ごします。もう直ぐその季節です。

総会報告

2025 年度の総会は 5 月 24 日の午後 14 時からオンライン(Zoom)で開催されました。なお、総会は正会員の 1/5 以上の出席を持って総会は成立します。今回の出席者は 7 名。さらに委任状提出者が 10 名で合わせて 17 名となり総会は成立しました。

なお、総会当日の正会員は 28 名でした。(なお総会での議決権は有りませんが、賛助会員は 104 名学生会員は 69 名でした。)

さて：

2024 年度の事業報告では、有志によるホームページのリニューアルが完成し、その公開を記念し、さらに翌年度の創立 25 周年を祝い多文化交流参加者の OB・OG 同窓会を実施したことを特筆しています。また、各多文化交流プログラム及び SET の活動がコロナ禍の停滞期が過ぎて、運営基盤の再構築が整い、安定して運営・活動を始めたと報告しています。

Manapal&IIMS の教育活動・学習支援活動は全スタッフ・講師陣の尽力により、英語検定や高校受験などで多くの結果を残すと共に、数値化できない次元での子どもたちの成功体験の積み重ねに寄与することが出来ました。

会計報告は右の貸借対照表をご参照ください。

2024 年度の事業報告、会計報告・監査報告の審査・承認を経て、2025 年度の事業計画案及び収支予算案が承認され、3 時 5 分に閉会しました。

2025 年度のこれまでの活動

☆今年度の**オムニバス講座**が 7 月に開催されました。話題提供者はオランダ在住で、子育てをしながらアムステルダム自由大学で修士をしゅとくされたファン翠さん、ベーシストでテレビの音楽番組などで音楽監督を務める河合徹三さん、そして多文化交流でイスラム教徒の助成と出会い、自身もイスラムに改宗してフリーランスの Web エンジニアとして活躍する横井宏行さんの 3 人でした。

☆8 月 9 日(土)～11 日(月)に夏の「**多文化交流 in ぐんま 2025 夏**」が開催されました。須田零香をリーダーに 8 名のスタッフが 3 カ月練りに練ったプログラムに 30 名の参加者、24 名のまなばるキッズ、そして 9 名の食ボラが集い、楽しく記憶に残る交流ができました。

☆8 月 21 日(木)～27 日(水)は「**多文化交流 in 韓国プサン 2025**」。主催は釜山外国語大学サークル「のびのび」の学生と IIMS の学生会員で構成される実行委員会：韓国在住スタッフ代表はジョン・ジンウク、日本在住スタッフは工藤友香。充実したプログラムだったようで、終了後もラインで参加者たちがつながっています。

☆例年、マランでの交流は春に実施してきましたが、来年の春はイスラム教徒が断食するラマダンとぶつかるので、9 月に「**多文化交流 in インドネシア・マラン 2025 夏**」を 9 月 11 日(木)～17 日(水)に実施しました。IIMS マラン事務局のメンバーと菅ヶ谷マコさんに引率スタッフの村瀬陽香、コーディネーターの松原雄斗が加わってのプログラムは充実した交流の一週間になりました。

法人名：特定非営利活動法人 国際比較文化研究所

貸借対照表

2025年3月31日 現在

(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	7,024,951		
流動資産合計		7,024,951	
2. 固定資産			
(1)有形固定資産			
【事】 備品購入費	1,610,136		
車両運搬具	1,548,266		
減価償却累計額	-2,868,576		
什器備品	25,278		
有形固定資産計	315,104		
(3)投資その他の資産			
敷金	85,000		
投資その他の資産計	85,000		
固定資産合計		400,104	
資産合計			7,425,055
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,930,208		
短期借入金	273,780		
預り金	1,076,276		
所得税預り金	692,354		
事業関係預り金	819,138		
流動負債合計		4,791,756	
2. 固定負債			
長期借入金	12,183,637		
退職給付引当金	725,000		
固定負債合計		12,908,637	
負債合計			17,700,393
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		-11,606,082	
当期正味財産増減額		1,330,744	
正味財産合計			-10,275,338
負債及び正味財産合計			7,425,055

創立 25 周年を記念して皆さんから感想を 3 月号に掲載させていただきましたが、その後頂戴した感想をここに掲載させていただきます。

最初は、前回勘違いで送って下さった福崎結子さんの長文の感想です。福崎さんは第 1 回の多文化交流から 5 年ほど経過した 2007 年 1 月に実施した多文化交流 in 台湾の参加者でした。そのプログラムこそが今日の多文化交流の原点になりました。この年には募集のチラシも作成しておらず、教室で口頭で募集しただけだったようです。

翌年 2 月にはチラシも作成して広く参加者を募集した結果、引率も含めて 16 名で実施しました。



福崎結子 専業主婦

「こんにちは。」これは、日本語です。

でも違う国の方々にも通じてしまうのだから不思議で仕方ない。それが多文化交流です。

私が太田先生と出会ったのは、今から 20 年程前の若かりし大学生の頃。秋からの授業で、教室に先生が入って来て、『教科書をとじろ!』と言ったのを今でも覚えています。授業を受けるぞ!! と恰好だけでも意欲満々にしていた私にとっては、変化球が来た!! という感じでした。年末になり「日本語だけ話せば良いから年明けに海外へ行って遊ぶぞ!」と言われ、その場で申込をしたのが初めての多文化交流 in 台湾でした。同じ大学の友人達と参加したのですが、それはそれは不思議な体験でした。交流する仲間は日本語ペラペラな人達ばかり、バスに乗るのも、ホテルにチェックインするのも、ご飯を注文するのも、なんら問題のない日本語で通訳してたくさん助けてくれました。ペアで街中を歩いたりもするのですが、日本語のギャクも理解して笑ってくれるし、ギャクも考えて教えてくれるし、私の知らない日本文化まで知っていたりしました。

台湾にいるのだけれど、日本語を話している不思議な感覚ではありました。私は、日本の親に産まれたから単なる日本人であるというだけで、日本という国を意識したことなんかありませんでした。それなのに、こんなにも日本を大好きでいて下さる人達がいる事に驚きました。

夜まで夜市で遊び、台湾のカードゲームをしたり、台湾流お酒の飲み方を教わったり、臭豆腐の食べ方を教わったり（匂いが臭すぎて、食べるのには必死でした）ただの旅行では味わえない人と人との繋がりがとても心地良く、旅のお別れの時に涙を流してしまうのは、短い間の中でとてつもなく濃い時間をお互い過ごしてきた証だったのでしょう。

今、私は、4 人の男の子の母親です。夫の妻であり、桧原シュタイナー土曜学校の事務局であり、こひつじ幼稚園の父母の会代表であり、おもちゃ箱のスタッフでありと福岡にいろんな繋がりができました。福崎結子という個人はいろんな仮面を交代でかぶりながら生きております。たくさんのコミュニティの中で、いろんな役割をこなしているのも、多文化交流で培ってきた人と人との出会いを大切にしてきたからだと思っています。

今でも、昔旅をした仲間から便りが来ると、当時の自分に戻ってなんだかワクワクする気持ちになります。それが多文化交流なんだと思います。いつの時も、仲良くなったあの旅の時間に戻れるんだと思います。

たくさんの方が繋いできた 25 年間の多文化交流 これからもたくさんの人に初めての出会い、笑い感動、お別れの涙を届けることができますように♡

2007 年 1 月の多文化交流 in 台湾に続いてスタートしたのが、同じ 2007 年 9 月の多文化交流 in マランでした。次にスタートしたのが 2010 年 2 月の多文化交流 in プサン。マランとプサンは今日も継続しています。そして多文化交流 in ぐんまが本格的にスタートしたのは、2010 年の 12 月でした。参加者は 45 名でした。その活動を支えたのは食事ボランティア、車だしボランティアが合わせて 20 名弱で、学生も数名入っていましたが、殆どが IIMS 理事や社会人達でした! 今日のような形の「学生スタッフ」による多文化交流 in ぐんまがスタートしたのが 2012 年でした。



脇優美 多文化 OG

IIMS には、これからの将来、「変わらずに変わり続けて」ってほしいと思う。私が初めて多文化交流に参加したのが 2012 年の夏、、13 年前?! 干支一周した?! 先日の同窓会の時も同じように驚いていた気がする。けれど、驚くほどに IIMS にわっさわっさ集まる人達の空気感というものは、全く変わらないね。いつも居心地の良さが漂っている。IIMS が創立してから 13/25 年、たったの半分しか関わっていないが、いや、半分もの年月を IIMS のメンバーとし

てこうやって活動が続けることが出来て、とっても誇らしいしとっても嬉しい。私達を取り巻く環境は、めくるめく変わっている。そんな中で、IIMS はその環境に順応するようにカタチを変えていっている。向かう先、目指す先は変わらずに、通る道や通り方を変えながら、年々柔軟に豊かにバージョンアップしている。自分自身、歳を重ねれば重ねるほど、そういう在り方がいかに難しいか、いかに凄いことをしているか、実感している。明るい未来と一緒に思い描ける仲間たちがいるっていいね。これからの人生が楽しみだと素直に感じられるのは、そう思わせてくれる仲間たちの輪が、静かに、けれど確実に広がっているからだと思う。温かくて柔らかくて、そして凛としている、そんな IIMS でこれからもあり続けてほしいな。

25 周年という特別な年に研究所の様々な活動に参加できることを、大変うれしく思います。昨年末に行われた同窓会や 2 月に多文化交流 in ぐんまを行った際、多くの方々に支えられているから今もこうして多文化交流という活動が愛され、年齢や性別、国籍などを問わず、多くの人がつながっていただけるのだと感じました。さらにたくさんの方に IIMS で行っている様々な活動の魅力を知ってもらうために、今後も多文化交流をはじめとした IIMS の活動に主体的に参加していきます。



林 紗紗衣 理
SET 副リーダー



田中結衣
SET 会員

IIMS に出会ったのは大学 2 年生の春。この出会いがまさか自分にとってこんなに大切なものになるとは思ってもいませんでした。SET のメンバーとして地域チームのスタッフと多文化交流 in ぐんまに 4 回スタッフとして参加し、大学生活の大半を IIMS の活動で過ごしました。どの活動をするにあたって、そこで出会った人たちとは今でも交流が続いていて今では大切な私の友達です。「つながり」に年齢や国籍は関係ないということを強く実感させてくれた IIMS には感謝しかありません。このつながりがもっともっと広がってくれることを祈っています。

2025 年多文化マランに参加させていただきました。インドネシアの女の子に資金サポートをしているので、彼女の住む国に行けると飛びついてしまいましたが、中高年の参加者は私 1 人で、空気を読まずに参加してしまったことを大変心苦しく思いました。しかし、この旅は実に素晴らしいものでした。インドネシアの皆さんには心からもてなしていただき、一緒に参加した日本人の女の子達にも仲間のようにつながってもらいました。本当に楽しかったのですが、仕事もあり今後外国へ行くのは難しいと思いますので、若い皆さんにこのような経験を沢山してもらいたいと思い、賛助会員になることを決めました。今後ともどうぞよろしくお願いします。



塚越優子 会社員



関千景 理事

太田敬雄先生と出会った短大生の頃、自分が 25 歳になることも、何かを 25 年続けることも、想像さえしませんでした。「未来を見る」より「今を生きる」ことに夢中だったからです。歳を重ね、相変わらず私は現在の生活で精一杯なのですが、太田先生はずっと変わらず「先」を見据えています。その姿勢を手本に、そして本当に微力ながら、研究所の活動のお手伝いが出来ればと思っています。

コロナ禍から出会った仲間たち。SET の活動を通して、本音で語り合える一生モノの友達ができました。年齢や国籍を超えた多様な方々と関わる中で、互いの違いを受け入れ、学び合うことの大切さを実感しました。多文化交流は、楽しく刺激的であると同時に、これからの社会にとって必要不可欠なものだと強く感じています。

スタッフとしての経験も、参加者の言葉や姿勢から多くを学び、自分自身を見つめ直す機会となりました。国際比較文化研究所の 25 年という歩みに、自分も関わったことを誇りに思います。次の 25 年も、人と人が出会い、つながり、共に育ち合う場であり続けてほしいと願っています。



宇田川シティはな
大学生

2025年度の活動：上毛新聞記事で追ってみます

Student Exchange Team(SET)

SETには現在70名を超す現役学生が名を連ねている。その中で対面での交流をする「地域チーム」、オンラインでの交流のチーム、それに多文化ぐんまのチームがあり、それらをまとめるBridgeがある。

現在、Bridge代表は林紗衣理さん（群馬県立女子大3年）、地域代表は守岡祈さん（高崎経済大2年）、そしてオンラインの代表は小原ひなさん（群馬県立女子大2年）が担当。

それぞれに意欲的に活動が続けています。

2025年（令和7年）5月1日（木曜日） 社会（18）

学生の国際交流サークル「SET」

多文化理解のため 活動する仲間募集

多文化理解の普及を目指すNPO法人国際比較文化研究所（安中市）の学生会員で構成する国際交流サークル「SET（セット）」が、一緒に活動する仲間を募っている。友達の輪を世界中に広げ、平和につなげる多彩なプログラムを企画や運営、広報しており、学生リーダーで、県立女子大3年の林紗衣理さん（20）は「新しい出会いやつながりが生まれる。国内外に多くの友達ができ、新たな世界を知るきっかけになる」と参加を呼びかけている。

SETは「Student Exchange Team（スチューデント・エクスチェンジ・チーム）」の略で、2014年に発足した。主な活動内容はオンラインでの交流会のほか、対面による多文化交流プログラムのイベントスタッフとして学生の視点で楽しめる内容を考えて準備し、内容を広めている。

現在のメンバーは約60人。県立女子大や高崎経済大、共愛学園前橋国際大をはじめ、都内や関西の大学、対面での交流実績のある韓国やインドネシアの学生も所属している。今後は、より多様な国籍や地域からのメンバーも増やしていくという。

母体となる研究所は「相互理解に基づいた、平和で豊かな地球へ」をモットーに00年に設立。国籍や世代を超えた仲間づくりの場や、地域の子どもたちを対象にした学びと経験の場を提供している。

ことし創立25周年の節目を迎え、太田敬雄所長（83）は「学生たちのネットワークが広がっており、とてもうれしい。SETでの経験をやしにしたい」と期待を込めた。

SETの会員資格は、大学生や短大生、専門学校生らで日本語でコミュニケーションが取れ、国際交流に

活動を紹介する林さん（左）と太田所長



参加したい気持ちがあること。入会金や年会費は無料。




入会申し込みはQRコードより。問い合わせは、同研究所「QRコード」へ。（宮崎秀貴）

多文化交流 in 韓国プサン 韓国ブームの今、参加希望者は多いのですが、日本からの参加者数を15名に限定して開催。釜山の参加者も合わせて総勢30名ほどのメンバーは、今もオンラインで、あるいは対面での交流が続けている。

（17） 社会 2025年（令和7年）5月25日（日曜日） 上毛

韓国学生と文化交流

8月、釜山で7日間 大学生らの参加募集

日本と海外の大学生らの交流事業を進めるNPO法人国際比較文化研究所（安中市、太田敬雄所長）は8月21～27日、韓国で国際交流事業を実施する「多文化交流 in 韓国プサン2025」と題し、大学生が中心となって準備を進めており、参加者を募っている。

7日間の日程で韓国・釜山を訪問し、釜山外国語大で日本語を学ぶ学生らと交流する。現地のゲストハウスに滞在し、一緒に料理を作ったり、レクリエーションを満喫する。班別の自由行動もあり、観光スポットも訪ねる。

事業は日本と韓国の学生らで実行委員会を組織して主催。日本側の学生で県立女子大2年の工藤友香さん（19）は「この夏、新しい景色の中で特別な1週間を一緒に楽しみ、友達の輪を広げよう」と呼びかける。

研究所は2000年に創立。他の文化に触れ、互いの違いを受け入れた先に平和な地球社会が生まれると国内外で多文化交流プログラムの展開している。現地では日本語で交流する。対象は18歳以上（高校生不可）で、全日程参加できる人。参加費は7万7千円。航空券などは各自で手配する。応募期間は7月13日までで、先着で10～15人程度。詳細や申し込みは公式インスタグラム「QRコード」へ。（宮崎秀貴）



韓国で行う国際交流を紹介する工藤さん

6

▼ご寄付及び会費納付先▼ ー変わらぬお力添えをお願いしますー

【クレジットカードによるお手続き】

下記 QR コード、もしくは IIMS のホームページからアクセスして頂き手続き・ご登録ください。



研究所 (IIMS) のホームページ
<https://iims-japan.org/>

【振込用紙によるお振込み】

郵便振替口座：加入者名	国際比較文化研究所
口座番号	00510-0-61974
銀行への振込：群馬銀行	安中支店 普通預金
口座番号	0958657
加入者	トクヒ) コクサイヒカクブンカケンキュウジョ

ニューズレターを郵送させていただいた皆様には、振込用紙を同封させていただきますが、これは請求書ではありません。一律に皆様にお送りしているもので、すでに会費をお振込み下さった方にもお送りしています。

メールでニューズレターをお送りしている方々には振込用紙をお届けできません。特に会費の請求はお送りしておりませんが、郵便局の振込用紙、もしくはカードでお振込みくださいますようお願いいたします

入会・会費・寄付振込状況 (25.3.20. ~ 9.30) / カード振込 (~25.9.30.)

皆様の変わらぬお支えに励まされて活動を続けています。有難うございます。

正会員入会： 朴株亨 (パクジュヒョン)、

賛助会員入会：塚越優子

学生会員入会： 平井千衣歌、Paundra Sumbaga、Ventureira Rodorigo、シン・ジワン、岡田隼弥、金井蒼汰、鈴木心結、野尻千祐、須田悠立、卯木蔵人、山本小暖、佐々木愛真、飯島一葉、穴戸美咲、柴山結、岡田優月、大石眞子、

正会員会費： 朴株亨、江口綾夏(24,25)、關橋賢、根岸大輔、福田則行、岩丸愛、太田玲子、鈴木布美子、福崎結子、澁谷和代、狩野真由美、伊藤成、太田琢雄、太田敬雄、幸田一彦、関千景、野口紀子、田中志乃、恩幣宏美、

賛助会費： 塚越優子、手塚恵 (24,25)、福田英作(24)、原啓太(24)、山縣英明、丸山武子、板垣剛、関口澄、荒井和子、正田智美、近藤佳代(25,26)、齋藤正幸、齋藤野乃、相川洋美、大澤直子、小坂景子、小原智、梶原悦子、梶山拓弥、増山律子、片岡謙、Candy Koo、小林慎樹、坂田くるみ、杉浦翔太、關橋理紗、高山佳葉、橋詰元良、千木良和子、藤本恵大、増山律子、森泉英司、横井宏行、佐藤貴雄、石川力、木暮道子、青木洋子、中村さよ、斉木雄作、

一般寄付： 佐藤直樹・みどり、岩本松江、村井田和夫、福田英作、山縣英明、太田敬雄、板垣剛、正田智美、澁谷和代、太田玲子、前田申栄、狩野真由美、高山有紀、山村由美、伊藤成、幸田一彦、木暮道子、關橋賢、

まなばる寄付：板垣剛、 多文化交流寄付：菅ヶ谷マコ

毎月寄付：樋本達之、根岸大輔、Rosdiana Febrianti、藤本恵大、内野春香、片岡謙、吉田理沙、

2024 年度 会費・寄付報告 大変遅くなりましたが、ここに 2024 年度の会費およびご寄付の振込状況を記載させていただきます。毎号、ニューズレターにご報告していますが、改めて一年分をまとめてご報告します。ミスが有りましたらご連絡下さいますようお願いいたします。(敬称略)

正会員会費 3000 円：

荒井美幸、伊藤成、太田敬雄、野口紀子、金井美由紀、狩野真由美、澁谷和代、菅ヶ谷純弘、菅ヶ谷由美子、関千景、關橋賢、根岸大輔、福田則行、岩丸愛、幸田一彦、太田玲子、恩幣宏美、高尾善樹、福崎結子、村田元

(次ページに続く)

賛助会費 2,000 円：

相川洋美、青葉由香、阿部洋一、荒井和子、新井瑞穂、石川力、板垣剛、伊藤優子、岩井均、岩本松江、上田暢子、大澤直子、太田知子、小坂景子、小原智、梶原悦子、梶山拓弥、片岡謙、金井優季、川口知幸、木村隆、Candy Koo、熊倉浩靖、木暮道子、小林慎樹、小林久子、近藤佳代、斉木雄作、齋藤正典、坂田くるみ、佐藤貴雄、佐俣久子、佐俣由香、清水久美、正田智美、巢山史枝、関口澄、關橋理紗、高橋美一、高山佳葉、田中志乃、千木良和子、手塚恵、永田強一、中町文彦、中村さよ、野口周一、橋詰元良、原啓太、福田英作、藤本恵大、堀越敏男・美津子、前田浩、増井杏奈、増山律子、丸山武子、村井田和夫、森泉英司、森泉孝行、山縣英明、山崎恵美子、山村由美、横井宏行、吉野愛子

寄付：

太田敬雄、福田英作、伊藤成、阿部洋一、板垣剛、岩井智子、岩本松江、内野春香、江口綾夏、片岡謙、太田玲子、金井美由紀、狩野真由美、川口知幸、木暮道子、齋藤正則、佐俣由香、渋谷和代、菅ヶ谷由美子、永田強一、根岸大輔、福田英作、藤本恵大、堀越敏男・美津子、前田浩、丸山武子、村井田和夫、山縣英明、山崎恵美子、Yayoi Eisterhold、栗野明子、大宮登、ウェンディ横井、佐藤直樹・みどり、郡司理佳、清水理沙、坪井教由・明子、中町文彦、樋本達之、松本光、山村由美、Rosdiana Febriyanti、イエスの友会、匿名

オムニバス講座

IIMS のもう一つの大事な交流プログラムです。年齢制限は設けていませんが、ターゲットとしては若者よりは上の層を対象としています。

一回 90 分の懇談では「友達になる」所まではいかないまでも、色々な方々の世界を覗かせて頂き、理解を深めることで、参加者の世界が少し広がるのだと思います。

7 月にも魅力的な三人の方のお話を聞くことが出来ました。今年度はもう一回開催出来ればと考えています。読者の方で「自分のすむ世界」を語ってみたい方、ご連絡下さい。

編集後記：☆今年度の第 1 号を 6 月に発行の予定でしたが叶わず、9 月に合併号をと準備を始めました。しかし、猛暑の中で色々重なり結局 11 月になってしまいました。

☆今回は以前から一度触れておきたいと思っていたことを卓話で取り上げました。一度私の思いをお伝えしなくては「死んでも死にきれない！」との思いで記しました。背景をご存じない方にはわかり難いと思いますが、どなたかを非難するようなことにはしたくありませんでしたのでこのような形になりました。言葉不足をお許してください。☆2025 年もあと二か月弱となりました。長い猛暑の後はいきなり冬に突入したようです。今年は庭の野菜もうまく育ちませんでした。天候のせいなのか、私の育て方が悪かったのか。欲張って色々なものに手を出していたのも問題でした。何事にも「歳相応に」を意識していきます（敬）



2025 年度
オンライン オムニバス講座

共通テーマ
私の住む世界

まずは聞いてみる。感じてみる。考えてみる。
そこから、あなたの世界を少し広げてみませんか？

参加費 無料

1 7月2日(水)
午後8時半～10時
話題提供者
ファン翠



北海道出身。群馬県立女子大学在学中に、幾つかの多文化交流プログラムに参加。卒業後はフェアトレード食品を輸入する企業に勤務し、東南アジアの小規模農家と向き合う中で、文化の違いに直面しながらも、異文化間の協働のあり方を模索・奮闘。
結婚・出産を経てオランダに移住し、アムステルダム自由大学にて Culture, Organization and Management of the 修士号を取得。現在は第三言語となるオランダ語を学びながら、子育て、就職活動中。趣味はコーヒーにまつわるあらゆること。

申込締切 6月 25 日 (水)

2 7月16日(水)
午後8時半～10時
話題提供者
河合徹三



東京都文京区出身。1976 年ラジオのパーソナリティとしてデビュー。以降数多くのレコーディング、ツアーサポートに参加し現在に至る。南こうせつなどアルバム・プロデュース・アレンジ等多く手がけ、フォークを中心にテレビの音楽番組の音楽監督を務める。2003 年 4 月、ソロアルバム「Trapezium」2010 年ラジオ番組は 32 年振りとなる新譜「～家路～ My Sweet Home」をポニー・キャニオンよりリリース。2013 年、インストバンド「TRI BARREL」を結成して CD「詩のかけら」(Nostalgin)をリリース。2024 年、一色蓮(ex シネマ)とヴォーカルアルバム、13(ワンサン)「FALBUM」リリース。
ソロも含めライブ活動が続いている。

申込締切 7月 9 日 (水)

3 7月30日(水)
午後8時半～10時
話題提供者
横井宏行



神奈川県出身、日大商学部卒業。大学在学中に太田先生の講義を履修したことをきっかけに、多文化交流の廣に。インドネシアでの多文化交流にて妻と出会い、イスラム教へ改宗、国際結婚。現在は 2 歳児と猫に囲まれながらフリーランスの Web エンジニアとして活動中。
自分の知らない世界を知るのが好きで、向こう見ずでとにかくやってみる性分。「皆様とお話できるのを楽しみにしています。」

申込締切 7月 23 日 (水)

発行：特定非営利活動法人国際比較文化研究所
事務所：379-0124 群馬県安中市鷺宮 3413-3
電話：027-382-5998 FAX:027-382-6393
研究所 HP：<https://iims-japan.org>
メールアドレス：iims.since2000@gmail.com
まなぱる HP：<https://manapal.jp>
メールアドレス：mail@manapal.jp
郵便振替口座：加入者名 国際比較文化研究所
口座番号 00510-1-61974